

県内の死亡事故の特徴

(12月31日現在 53件54人)

(1) 死者の年代別：高齢者が6割以上を占める

死者54人中、65歳以上の高齢者が35人で、6割以上を占める。

高齢者35人の内訳は、四輪運転中が13人、歩行中が11人、自転車乗用中及び四輪同乗中が各5人、その他（手押し一輪車）が1人である。

(2) 死者の状態別：四輪運転中が最も多い

死者54人中、四輪運転中が23人と最も多く、次いで歩行中が15人、自転車乗用中、四輪同乗中及び二輪運転中が各5人、その他が1人である。

(3) 事故の類型別：「車両単独事故」と「追突事故」が多い

死亡事故53件（死者54人）中、車両単独事故や追突事故など、運転者の一方的な過失による事故が25件（死者26人）と半数近くを占め、死者26人のうち車両運転中が18人、車両同乗中及び自転車乗用中が各4人となっている。

(4) 発生の昼夜別：「昼間」が6割以上を占める

死亡事故53件（死者54人）中、昼間が33件（死者34人）で6割以上を占める。

《9月以降の特徴》

9月以降は、「人対車両」が多い

9月以降は、死亡事故19件（死者20人）中、「人対車両」が19件中9件（死者9人）と、4割以上を占めており、死者9人のうち8人は高齢者となっている。

今後、薄暮時間帯における上記事故の増加も予想される